

2025_0516「本庄の黒曜石打製石器（写真）」日々の理科 3935号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

「旧石器時代（きゅうせっきじだい）」という歴史区分があります。かつての弧状列島（現在の日本列島の原型）で言うと、大陸から人類が移住を始めた約 40000 年前から、縄文時代が始まる約 16500 年前までを指します。「先土器時代」「無土器時代」という呼ばれ方もします。この時代の遺跡は前項鬼 1 万か所以上見つかっていて、今から 10000 年以上も前から日本列島には多くの人類が生活を営んでいたことがわかります。

旧石器時代の遺跡から見つかる発掘物の代表が「打製石器」です。鉱物や岩石をほとんど研磨することなく、石と石、または石と動物の骨などをぶつけて形造った石器のことです。当然形状は「ゴツゴツ」しています。その材料となる石として最も重要だったのが「黒曜石（正確には黒曜岩）」です。

埼玉県本庄市にも旧石器時代の遺跡がいくつか見つかっていて、本庄早稲田駅前の博物館にその発掘物が展示されていました。色や透明度から、一目で「長野県和田峠産の黒曜石」とわかるものが多く、すでにその時代に長野県の山奥と関東平野に交易があったと推測されます。

私も黒曜石で石器（矢じり）を造る体験をしたことがありますが、意外と難しく、思い描いた形状に仕上げるには相当に時間がかかりました。恐らく、当時の人類の集団の中では、黒曜石の石器をうまく造れる者が、一定の地位と尊敬を集めていたにちがいません。

(2025年5月中旬／埼玉県本庄市・本庄早稲田の杜ミュージアム)

西富田浅見山（あざみやま）第一遺跡／旧石器時代

